

2025 年度 第 3 四半期レポート

2026 年 1 月 20 日

一般社団法人 Japan Automotive ISAC

内容

【第 1 章】 運営委員会からの活動報告	3
1. 第 6 回 活動報告会（技術委員会 & CSECC 合同）	3
2. 2025 年度第 3 四半期に入会いただいた新規会員	4
【第 2 章】 SOC からの活動報告	5
1. 2025 年度 第 3 四半期の概要	5
1) 脅威・脆弱性情報の報告件数	5
2) 脅威・脆弱性情報レベル	6
3) 脅威・脆弱性情報の提供ベンダー 2 社間での同一案件の比率	7
【第 3 章】 技術委員会からの活動報告	8
1. はじめに	8
2. 2025 年度活動計画と実績報告	9
1) 2025 年度活動計画	9
2) 技術委員会活動成果物	9
3. 第 6 回活動報告会（2025/12/17 開催）	10
【第 4 章】 CSECC からの活動報告	11
1. はじめに	11
2. 成果物の公開について	11
3. 第 6 回活動報告会（2025/12/17 開催）	12

【第1章】 運営委員会からの活動報告

1. 第6回 活動報告会（技術委員会&CSECC 合同）

2025年12月17日(水)に、品川フロントビル B1FとTeamsを用いて第6回 活動報告会（技術委員会&CSECC 合同）と懇親会を行いました。

1) 第6回 活動報告会（技術委員会&CSECC 合同）10:00～17:00

各WG、SWG、TFのリーダーより活動状況を報告しました。

- ① 情報共有WG（インシデント事例検証SWG、脆弱性対応SWG、情報共有プラットフォームSWG）
- ② スキルアップWG（協同演習SWG、個別研修SWG、ベストプラクティス策定SWG）
- ③ サプライチェーンリスク対応TF、フォレンジック検討TF、法規・標準動向調査TF、
- ④ CSECC（SBOM-WG、セキュリティ人材育成WG）

参加者：約200名（会場参加者：約70名／Teams参加者：約130名）

2) 懇親会 17:30～19:00

業務の中では接する機会のない各社会員の皆さま同士が、親睦を深める充実した時間となりました。

会場参加者：約50名



第6回 活動報告会



懇親会

2. 2025 年度第 3 四半期に入会いただいた新規会員

新規入会会員

・シルバー会員 日本精工株式会社

※2025 年 12 月 31 日時点の会員数 121 社（加えて、学会会員 2 名）

【第2章】 SOC からの活動報告

1. 2025 年度 第 3 四半期の概要

1) 脅威・脆弱性情報の報告件数

2025 年 10 月から 12 月の 92 日間で提供された週次情報レポートの件数は、合計 90 件でした。
図 1 に内訳を示します。

脅威・脆弱性情報の報告件数は、2025 年度第 2 四半期と比較すると減少しています。
なお、車両に関連する新たな重大な脅威・脆弱性情報及びインシデントの発生はありませんでした。

- ① 脅威・脆弱性情報 : 50 件
- ② 業界動向情報 : 40 件

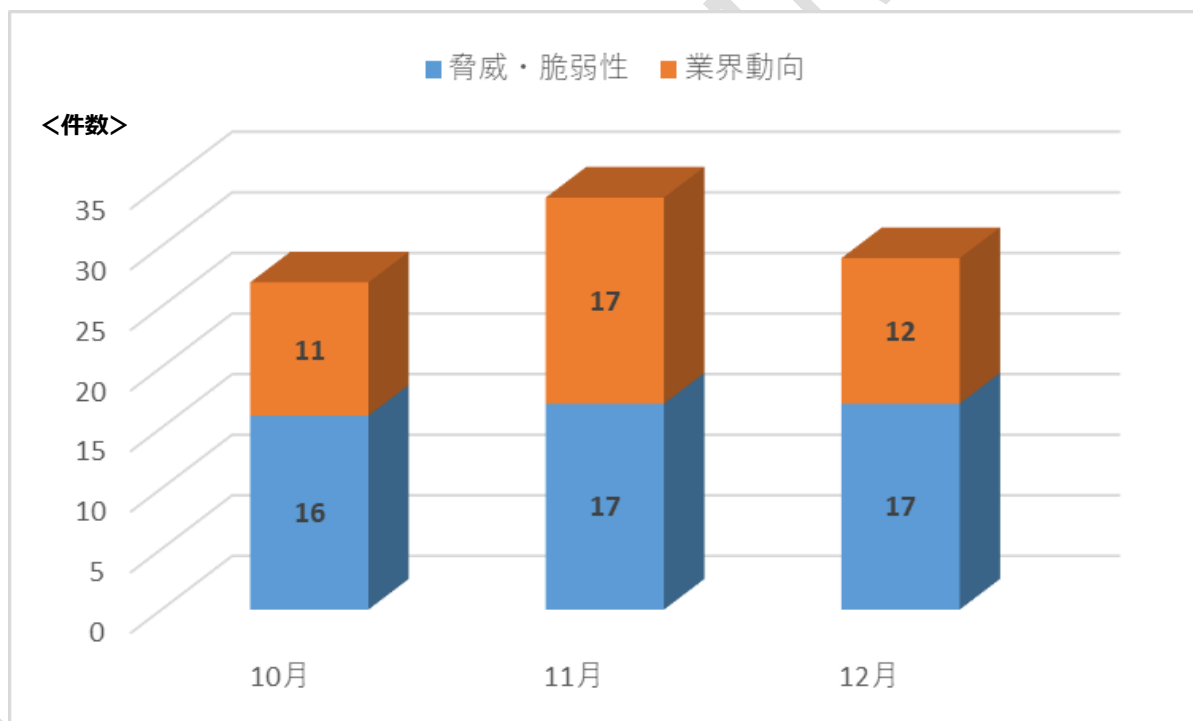


図 1 週次情報レポート 提供件数

※脅威・脆弱性情報件数は、自動車に係わる情報のみであり、かつ同一案件を除く

2) 脅威・脆弱性情報レベル

第3四半期における報告した脅威・脆弱性情報を分類すると図2のようになります。

重大情報と位置付けられた案件はありませんでしたが、要注意情報の件数は平均10件/月で、2025年度第2四半期と同様の状況です。

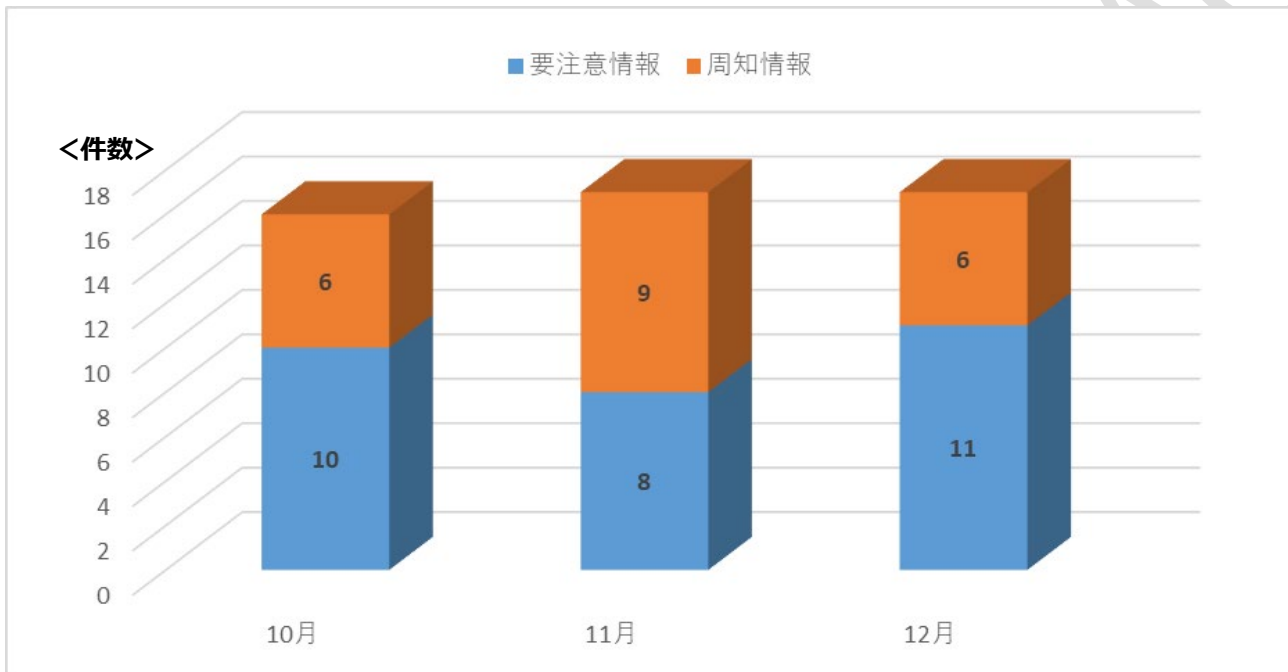


図2 脅威・脆弱性情報 レベル別件数

<参考>

※1.要注意情報：

自動車への関連性があるが影響度・攻撃可能性が高くない脅威・脆弱性情報

※2.周知情報：

注意すべきセキュリティニュースなど動向として認識すべき情報

※3.重大情報：

自動車への関連性があり、かつ影響度・攻撃可能性が高い脅威・脆弱性情報

3) 脅威・脆弱性情報の提供ベンダー2 社間での同一案件の比率

2 社から提供される脅威・脆弱性情報のうち、同一情報の比率は図 3 に示す通りです。平均して 20%程度が同一案件となっており、2025 年度第 2 四半期と同様の割合です。

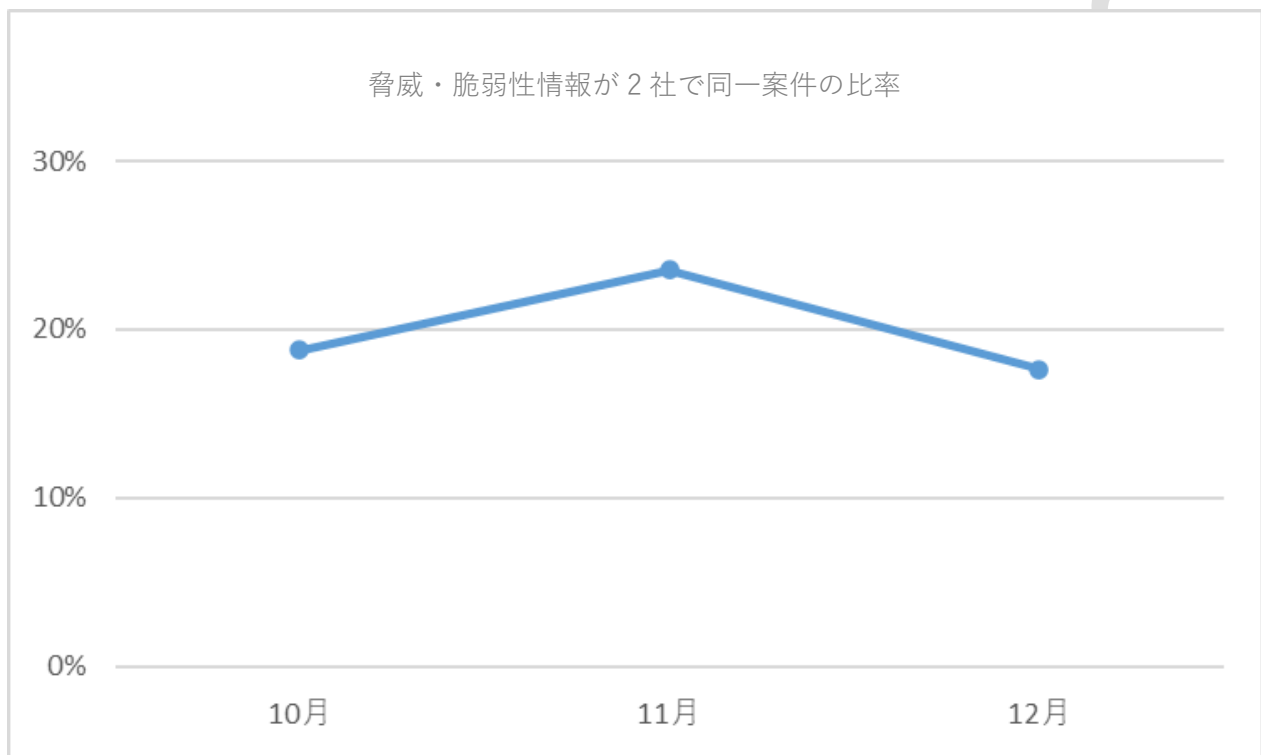


図 3 脅威・脆弱性情報 同一案件比率

【第3章】 技術委員会からの活動報告

1. はじめに

技術委員会は、昨年度までの 3WG/11SWG/1TF 構成から 2025 年 4 月より 2WG/6SWG/3TF に再編され、2025 年度の計画に則って活動を推進しています。今回は、12 月 17 日（水）に行われた第 6 回活動報告会における技術委員会の報告内容をトピックとして報告します。

2025 年 12 月時点の技術委員会活動人員を表 1 に示します。

表 1：技術委員会活動人数の推移

委員会/WG/SWG/TF	FY25 1Q 2025.4	FY25 2Q 2025.9	FY25 3Q 2025.12		前回比増減
技術委員会	218	216	209		
情報共有 WG	98	96	89		
インシデント事例検証 SWG	33	30	27		-3
脆弱性対応 SWG	53	54	50		-4
情報共有プラットフォーム SWG	10	10	10		
スキルアップ WG	68	68	68		
協同演習 SWG	16	15	14		-1
個別研修 SWG	20	20	20		
ベストプラクティス策定 SWG	30	31	31		
サプライチェーンリスク対応 TF	29	28	29		1
フォレンジック検討 TF	13	13	12		-1
法規・標準動向調査 TF	7	8	8		

2. 2025 年度活動計画と実績報告

1) 2025 年度活動計画

表 2：2025 年度実施項目

実施項目
1)技術委員会の戦略策定 業界に必要なサイバーセキュリティ対応能力の強化に向けた戦略の策定
2)成果物の発行 技術委員会傘下 6 つの SWG と 3 つの TF 活動を通じて参加会員の活発な意見交換やナレッジ共有を継続すると共に参加各社のサイバーセキュリティ対応能力の強化に貢献出来る成果物の発行

本計画（実施項目）に基づき、具体的な目標と取り組み方策を明確にして実行し、技術委員会活動をさらに発展させていきます。

2) 技術委員会活動成果物

表 3：活動成果物一覧（発行成果物と発行予定）

時期	成果物
2024 年 5 月	・第 5 回活動報告会（各 SWG/TF 活動報告書）
2025 年 6 月	・インシデント事例に基づいた技術レポート#1
2025 年 7 月	・協同演習の開催（@2025/7/23）
2025 年 9 月	・インシデント事例に基づいた技術レポート#2 ・脆弱性分析レポート#1 ・クルマのサプライチェーンにおけるサイバーセキュリティ取り組み(更新) ・ユースケース集(サプライチェーンリスク対応 TF) ・協同演習速報
2025 年 12 月	・第 6 回活動報告会（各 SWG/TF 活動・実績報告書） ・インシデント事例に基づいた技術レポート#3 ・クルマのサプライチェーンにおけるサイバーセキュリティ取り組み 付属書 2 編 ・製品セキュリティ品質保証プロセスにおけるリスク特定・対策の手引き ・製品セキュリティ品質保証プロセスにおける手引き 解説書 ・協同演習レポート
2026 年 1 月	・インシデント対応の手引き ・自動車フォレンジックの現状整理と基礎的考察 ・初学者の虎の巻
2026 年 2 月	・インシデント事例に基づいた技術レポート#4 ・脆弱性分析レポート#2 ・車両システムにおけるサイバーセキュリティで考慮すべき基本機能ガイド ・SWG 版 Car モデル(脆弱性対応 SWG) ・ベストプラクティス解説書

2025 年度も成果物を社内外へ展開していきます。

3. 第6回活動報告会（2025/12/17 開催）

1) 目的・背景

J-Auto-ISAC 加入メンバーを対象として、SWGとTF 活動の成果物、情報の共有を目的に、23 年度から年間 2 回のイベントとして「技術委員会活動報告会」を開催しています。本年度より、技術委員会 & サイバーセキュリティエコシステム構築センター(CSSEC)の合同活動報告会としての開催となりました。

2) 内容（資料については技術委員会、CSSEC 内で公開中）

下記の通り各 SWG の活動内容の報告を実施しました。

- ① 情報共有 WG
 - (ア) インシデント事例検証 SWG：インシデント事例分析レポート
 - (イ) 脆弱性対応 SWG：車両機能見える化、成果物検証結果、脆弱性分析報告書
 - (ウ) 情報共有プラットフォーム SWG：2025 年度活動状況
- ② スキルアップ WG
 - (ア) 協同演習 SWG：2025 年度協同演習分析レポート
 - (イ) 個別研修 SWG：初学者虎の巻
 - (ウ) ベストプラクティス策定 SWG：2025 年度以降の文書作成計画
- ③ サプライチェーンリスク対応 TF：ユースケース集
- ④ フォレンジック検討 TF：成果物概要
- ⑤ 法規・標準動向調査 TF：最新の法規動向調査結果
- ⑥ CSECC 活動
 - (ア) SBOM-WG
 - (イ) セキュリティ人材育成 WG

今回の第 6 回活動報告会では、情報共有 WG、スキルアップ WG、と TF 活動紹介および CSECC 活動紹介の 4 パート構成とし、それぞれ冒頭に各パートの内容説明を実施しました。

また、コーヒースタンドの時間を設け、会場参加者の間で発表内容に対して意見交換する機会も設けることにしました。

今回の参加者は、会場参加約 70 名、オンライン参加 130 名でした。各 SWG の報告では、今年度の締めくくりとしてより具体的な活動内容が報告され、米国 Auto-ISAC の参加者を含め質疑応答も活発に行われました。

【第4章】 CSECC からの活動報告

1. はじめに

サイバーセキュリティエコシステム構築センター（以降、CSECC）では、自動車業界全体のサイバーセキュリティ対応能力を中長期的な視野で底上げすることを目標に、日本自動車工業会（JAMA）、自動車技術会（JSAE）、JASPAR、日本自動車部品工業会（JAPIA）、Auto-ISAC などの業界団体と連携し、抜け漏れのない CS 品質向上活動の実現を目指しています。

現在、CSECC 傘下には 2 つのワーキンググループ（WG）があり、セキュリティ人材育成 WG には 20 社から 23 名、SBOM-WG には 31 社から 49 名が参加しています。これらの WG では、業界連携に必要な成果物の策定を行うとともに、参加メンバーによる実務レベルでのナレッジ共有と意見交換の場を提供しています。

今回は年末に公開した成果物の紹介、及び 12 月 17 日（水）に開催された第 6 回活動報告会の内容をトピックとして報告します。

2. 成果物の公開について

昨年末 12 月 22 日、かねてより予告をしておりました『クルマのサイバーセキュリティにおける SBOM 活用（初版）』をホームページにて公開いたしました。（詳細は下記よりダウンロードしてご確認ください。）

<https://j-auto-isac.or.jp/documents/>

注）資料の閲覧には申込者情報の入力が必要となります。

SBOM は、ソフトウェアに含まれるコンポーネントや依存関係を明示する「ソフトウェアの部品表」であり、サプライチェーン全体の透明性向上および脆弱性管理の迅速化に大きく寄与します。近年、ソフトウェアの複雑化やサイバー攻撃の高度化を背景に、SBOM の重要性は世界的に高まっています。

J-Auto-ISAC では、国内外の関連団体や業界企業との意見交換を重ね、自動車のセキュリティ脆弱性管理に適した SBOM 活用の考え方を整理しました。本書は、会員企業をはじめ、自動車関連事業者が SBOM を導入・運用する際の指針としてご活用いただけると期待しております。

なお今後は、SBOM の普及促進に向けて、関連団体や業界企業との連携をさらに強化し、ライセンス管理や構成管理などの課題も含め、自動車業界に適した SBOM の共通的な考え方を整理してまいります。

また今期中には『自動車産業 サイバーセキュリティ品質向上活動スキル棚卸しシート Ver1.0』につきましても公開を予定しております。

3. 第6回活動報告会（2025/12/17 開催）

J-Auto-ISAC 会員企業に加え、加入を検討されている企業の方（オブザーバ参加）を対象に、各活動の成果物紹介や情報の共有を目的に、技術委員会 & サイバーセキュリティエコシステム構築センター（CSECC）の合同での活動報告会として開催しています。

CSSEC からは冒頭に自動車業界各団体との連携ステータスを紹介、その後、各 WG 活動内容について報告を実施しました。

SBOM-WG からは上記でも紹介した『クルマのサイバーセキュリティにおける SBOM 活用（初版）』の概要紹介に加え、今後の活動方針を紹介しました。

セキュリティ人材育成 WG からは策定中のスキルマップ（案）の内容紹介に加え、公開予定の『自動車産業 サイバーセキュリティ品質向上活動スキル棚卸しシート Ver1.0』との差異や活用方法について紹介を行いました。

また今回より、コーヒースタンドの時間を設け、会場参加者同士が発表内容について意見交換する機会も設けることで各 WG リーダーやメンバーは有意義な意見を得ることができました。

以上

一般社団法人 Japan Automotive ISAC

E-mail : info@j-auto-isac.or.jp

<https://j-auto-isac.or.jp/>